

【理念】

主に難治・慢性疾患の子どもを対象とした医療・保健・療育・福祉サービスの県の中核機関として、安心・信頼・満足の得られる医療・ケアの包括的なサービス提供を行います。

【基本方針】

- 高度な専門知識と技術の向上に努め、良質で安全な科学的根拠に基づいた医療を、十分な説明と納得の上で提供します。
- 地域の医療、保健、療育、福祉、教育機関との機能分担・連携を図ります。
- 小児の医療、保健、療育、福祉にたずさわる専門家の育成、学生教育への協力および臨床研究を通じて、県下の小児保健医療の発展と向上に貢献します。
- 県立病院の使命としての政策医療を推進します。

診療科等のご案内

◆ 診療科目

小児科（総合内科・神経内科・アレルギー科）
こころの診療科（精神科）、整形外科、小児外科、眼科
耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

◆ 外来

予防接種、肥満、発達障害、ダウン症

- 内科系：頭痛、心臓内科、腎臓内科、内分泌・代謝科、血液・リウマチ科
- 外科系：泌尿器科、脳神経外科、形成外科

◆ 病床数 100床

ご利用案内

◆ 外来診療

- 小児科（総合内科）を除き、原則として予約制です。
- 診療時間 午前 9時00分～午後 5時00分
- 予約受付時間 午前 8時30分～午後 5時00分
- 休診日 土・日・祝日・年末年始

◆ 初診時の注意点

- 0～18才未満の方を対象としています。

◆ 初診時に持参いただくもの

- 保険証（国保・協会健保・共済等）：受診時毎月提示してください。
- 母子健康手帳（乳幼児の場合・こころの診療科受診の場合）
- 医療券（公費負担をご利用の場合）

★予約直通電話：077-582-8425★

小児科（総合内科）は予約なしで受診していただけます。
診療受付は午前11時30分（月～金）までです。

地域医療連携室ご利用案内

- 受付時間 月曜日～金曜日
午前9時00分～午後4時30分
（土、日、祝日、年末年始は除く）
- 直通電話 077-582-6222
- FAX番号 077-582-6276

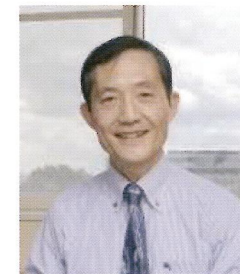


チャム&リリ



～ 病院 広報 ～

滋賀県立小児保健医療センター
(平成27年8月発行 Vol.20)



広報誌をお届けいたします。

昨年度は長年常勤医不在の状況であった眼科に、1名の常勤眼科医を迎えることができ、より多くの眼科外来ニーズに対応が可能となりました。今年度はさらに耳鼻科がもう1名医師増員となり常勤医2名体制での診療となりました。このうち1名は成人病センターと共同で設立された「聴覚コミュニケーション医療センター」と兼任となりますが、今後、県の難聴医療の中核的機能を担ってまいります。耳鼻科についての詳細は、この広報誌に耳鼻いんこう科担当医が記載いたしましたのでお読みください。

また今回の広報誌では、当院が得意とする難治てんかんやグルコース・トランスポーター1異常症などに対するケトン食療法も紹介いたしました。この療法は習熟した栄養士の協力が必須であり、今回は栄養士と医師からこの療法の紹介をさせていただきます。

4月から多くの医師が交代いたしましたので、新任医師の紹介もさせていただきます。

今年度も小児保健医療センターをよろしく願い申し上げます。

耳鼻いんこう科の常勤医が2名になりました！



【氏名】

おうぎた ひであき
扇田 秀章

【専門】
耳鼻咽喉科

【ご挨拶】

微力ながら、滋賀の子供たちに貢献できるよう頑張っていきたいと考えています。

耳鼻いんこう科について

耳鼻いんこう科は当センター開院から昨年度まで、常勤医 1 名体制で（平成 25 年度からは週 1 回で非常勤医師を増員）外来・小手術を担当してきました。そのため、手術日は外来を閉鎖せざるを得ないなど制限が大きく、患者様やスタッフの皆様にご迷惑をお掛けしたことも多々あったと思います。

今春に隣接の滋賀県立成人病センター内に“聴覚・コミュニケーション医療センター”が開設され、京都大学耳鼻咽喉科教授を退任された伊藤壽一京都大学名誉教授が成人病センター研究所長兼聴覚・コミュニケーション医療センター長として着任されました。小児センターの医師・言語聴覚士は聴覚センター兼任となり、聴覚に関する基礎研究と人工内耳手術など高度な補聴機器医療、新機器の開発など幅広い研究・医療を展開し、県内から国内、世界の難聴医療に貢献すべく益々精進することになります。

当科は小児のための難聴センターとして、難聴診断から補聴器調整、療育、人工内耳手術前後のリハビリまでの、県内小児難聴医療を一貫して一手に引き受けてきましたが、人工内耳植込術のみは京都大学など県外の専門医療機関に依頼していました。聴覚センター開設に伴う新医療分野として、まずは昨秋から特例として成人病センターでの小児人工内耳植込術が実施可能になりました。またそれに先駆けて平成 26 年度には、保健指導部と協同で“遺伝カウンセリング外来”を開設し、京都大学再生医学研究所にて内耳研究に携わっている堀江理恵非常勤医師が難聴遺伝子検査と遺伝カウンセリングを担当しています。結果、人工内耳医療を含む小児難聴医療の全ての領域が県内で完遂可能になり、県内の難聴児とご家族にさらに大きく貢献できるようになりました。

業務拡大が見込まれるため、今年度に念願の常勤医 1 名と常勤言語聴覚士 1 名の増員が叶いました。まずは外来閉鎖日が解消され、よりきめ細かな検査や訓練が可能になる等、診療内容のさらなる充実結びついています。

今回着任したのは京都大学耳鼻咽喉科入局 12 年目の扇田秀章医師です。最近 3 年間はフランスで内耳の研究に携わりました。医学部卒業後しばらくは小児科医として勤務した経験があり、当科でも丁寧な対応を心がけています。また、人工内耳医療の進んだ京都大学医学部附属病院から、松浦仁美言語聴覚士が着任し、同病院で習得した技能・知識を基にさらに修練していきます。

今後はスタッフ一同で、質の高い診療を常日頃から提供できるよう、日々臨んでまいります。皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

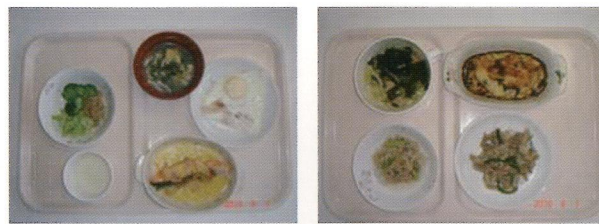
難治てんかんに対するケトン食療法について

ケトン食、という食事療法があるのをご存知でしょうか？

もしあなたがダイエット（減量）に興味のある方なら、「糖質制限ダイエット」の 1 つとして「ケトン体質ダイエット」という言葉を雑誌やインターネットでご覧になられたことがあるかもしれません。最近では認知症の改善やアンチエイジング効果をうたっている本もあるようです。しかし、本来、ケトン食とは紀元前の「絶食療法」に端を発する歴史の古い「てんかんに対する治療法」です。炭水化物の摂取を極力減らし、脂質を多めに摂取する（1 日に摂取する[脂質]と[炭水化物+タンパク質]の重さの比をケトン比と呼びますが、ケトン比が 3:1~4:1 になるように食事調整します）ことで、体内に蓄積されるケトン体という物質が神経細胞およびそのネットワークに作用して、てんかん発作に効果があるとされています。多くの抗てんかん薬が開発されてきたことで、ケトン食はてんかんの治療法としては 1980 年代以降、下火になりました。ところが次々に新しい抗てんかん薬が登場しても 2~3 割の患者さんではてんかん発作を抑えることができず、そういった薬剤抵抗性の「難治てんかん」に対する治療法として欧米を中心に 20 年ほど前からケトン食が再び見直されています。また、従来のケトン食より制限を緩和した「緩和ケトン食（修正アトキンス食、低グリセミック指数食）」が開発され、以前より続けやすくなりました。

当院では、医師と栄養士が協力し、修正アトキンス食、低グリセミック指数食をいち早く海外から導入し、日本人が食べやすいように工夫を続けてきました。国内でこれらの緩和ケトン食を行える施設は非常に少ないため、県外の病院からもケトン食治療の相談をお受けしています。

修正アトキンス食



低グリセミック指数食

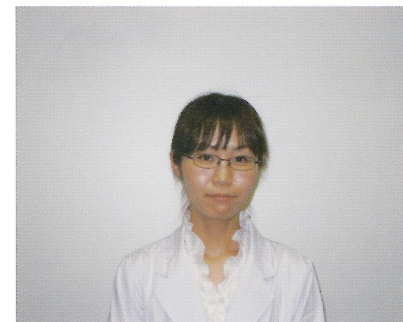


ケトン食を希望される患者さんに当院では 2~4 週間の「ケトン食お試し入院」プログラムを作成しています。固形食を経口摂取可能な方（離乳食中の乳児も含む）は修正アトキンス食、低グリセミック指

数食、いずれかの方法で行います。修正アトキンス食では、炭水化物制限（1 日 10~30g）を行います。低グリセミック指数食では血糖値の変動が小さいとされる低グリセミック指数の炭水化物を用い、量の制限はさらに緩和（1 日 40~60g）されます。ともに脂質は多めに摂取しますが、従来のケトン食より食べやすくなっています。1 日約 2000kcal 摂取される方の 1 日の具体的な食事内容を写真でお示ししますのでご参照ください。なお、経管栄養の患者さん、ミルクの経口哺乳が中心の乳児期の患者さんは、ケトンフォーミュラというケトン食治療用ミルクを用いて、従来のケトン食（ケトン比 3:1~4:1）を行っています。当院では 2007 年以降、約 50 人の抗てんかん薬に抵抗性の難治てんかんの患者さんにケトン食を行っており、約 4 割の方に効果を認めています。ケトン食治療を希望される方はご連絡下さい。

小児科医師 熊田 知浩 / 栄養士 高田 美雪

新任医師の紹介



【氏名】

とよしま えり
豊島 映里

【専門】
整形外科一般

【ご挨拶】
子どもたちの成長に少しでも力になれるよう努力します。どうぞよろしくお願ひ致します。



【氏名】

いのうえ けんじ
井上 賢治

【専門】
小児科一般、小児神経

【ご挨拶】
患者さんやご家族の気持ちに寄り添える医師になれるよう努めますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



【氏名】

ささき さえこ
佐々木 彩恵子

【専門】
小児科一般、小児神経

【ご挨拶】
子どもたちの笑顔を守るため頑張ります。